

【eプラットフォーム】テーマ別オンラインフォーラム 開催プログラム

2021年10月19日現在

	テーマ	キーノートスピーチ	開催日・時
1	<p>「地域活動を応援するオンラインプラットフォームとは」</p> <p>コロナ禍の中で多くの活動が制約を受ける中、オンラインによる新たな活動が次々に生まれています。定年後の出番づくり、文化芸術活動、市民講師育成、企業人材育成など、分野・世代・地域が異なるこれらの活動には、これからの社会に活躍する市民を応援する共通項があります。</p> <p>本フォーラムでは、これらの活動団体・関係者のモチベーションや実践を学び合い、それぞれの活動に生かすとともに、コロナにも強い教育・地域活動を育てるeプラットフォームの進化を考えます。</p>	<p>「効果的なプラットフォームをいかにつくるか」</p> <p>飯盛 義徳氏 慶應義塾大学総合政策学部教授 NPO 法人地域学習プラットフォーム研究会 理事</p> <p><著書等>『地域づくりのプラットフォーム』（学芸出版社）、『場づくりから始める地域づくり』（共著、学芸出版社）ほか</p>	<p>2021年4月28日 (水) Zoom オンライン開催</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; color: red; font-weight: bold;">開催済</div>
2	<p>「成熟社会で働くとは」</p> <p>人生100年時代という言葉が多く聞かれるこの頃。単なる長寿化ではなく、社会観・価値観の変化によって、社会や人との関わり方がどのように変化するのでしょうか。これまでとは違う考え方で生き方や働き方を探ることが求められるかもしれません。このフォーラムでは、「成熟社会」という視点でさまざまな識者の論説をまとめた佐藤友美子氏より、「成熟社会」という社会観のとらえ方や教育現場での取り組みを聞き、その上で、「成熟社会」で求められる人には何が大事か、どう育て支援したら良いか、新たな視点や問題意識を皆さんで共有し、一緒に考えます。</p>	<p>「学び続ける力を育てるために -次世代育成の現場から-」</p> <p>佐藤 友美子氏 追手門学院大学地域創造学部教授・成熟社会研究所主宰、2021年2月までNHK経営委員、元、サントリー不易流行研究所・次世代研究所部長、サントリー文化財団上席研究フェロー</p> <p><著書等>『一人で思う、二人で語る、みんなで考える』（岩波ジュニア新書）、『つながりのコミュニティ』（共著、岩波書店）、『成熟して人はますます若くなる』（共著、NTT出版）ほか</p>	<p>2021年8月1日 (日) 19:00~20:30 Zoom オンライン開催</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; color: red; font-weight: bold;">開催済</div>
3	<p>「AI、DX時代に社会人の学び方はどう変わるか」</p> <p>新型コロナ感染拡大の中で、対面からオンラインへ、集合型からリモート参加型へと教育・学習の形態も広がっています。ウェビナーやコース管理システムによる評定のデジタル</p>	<p>「多様化する学習法-欧米に見るイノベーション」</p> <p>立田 慶裕氏</p>	<p>2021年8月8日 (日) 13:30~15:00</p>

<p>化など、新たな学習形態が取り入れられていますが、既存の発想を超えた創造的な学習は生まれているのでしょうか。</p> <p>例えば、膨大な業務データを瞬時に機械学習させ、新たな知識資産を現場から経営層まで共有・学習する企業のAI経営では、一人ひとりがデータ・知識の発生源という意識が生まれ、主体的な学習者となることで、既存の知識・経験・前例を元にした学習では見られない、学習の場づくりと課題解決行動が起きています。このような主体的参加・知識形成・課題解決行動は、インターネット市民塾で見られてきたことと共通するものがあります。</p> <p>デジタル化やAI活用の普及により、企業や社会生活の中での意識・行動の変容が生まれている中、教育・学習機関ではどのような新たな学び方が取り入れられ、今後どのように変わるのでしょうか。</p> <p>海外の取り組みなどを専門家に紹介していただき、それぞれの活動・事業におけるこれからの社会人の学びの場づくり、プラットフォームづくりを考えます。</p>	<p>神戸学院大学人文学部教授、放送大学客員教授 国立教育政策研究所名誉所員、NPO法人地域学習プラットフォーム研究会会員 <著書等>『生涯学習の新たな動向と課題』（放送大学教育振興協会）、『キーコンピテンシーの実践 -学び続ける教師のために-』（明石書店）、『学習の本質 -研究の活用から実践へ-』（OECD、立田慶裕監訳、明石書店）ほか</p>	<p>Zoom オンライン開催</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; color: red; font-weight: bold;">開催済</div>
<p>4 「人、情報、学びがつながるユニバーサルなプラットフォームをどうデザインするか」</p> <p>複雑に変化する社会で、人はいつも目標や生き方が明確とは限りません。明日に向かって学ぶテーマを持っているとも限りません。また、成熟に伴い、加齢や障害の影響を受けることもありうるでしょう。</p> <p>アウトカムありきの参加ではなく、人生を歩く一人の目線で学びが見つかる場、いつでもだれでも立ち寄れる場＝プラットフォームは創れないのでしょうか。</p> <p>人や情報の関わりから、明日の生き方、学ぶテーマが見つかる場、創発やソーシャルイノベーションが生まれる場には、何が必要か、情報社</p>	<p>「誰もがつながりやすいユニバーサルなプラットフォームデザインとは」</p> <p>関根千佳氏 同志社大学大学院総合政策科学研究科ソーシャルイノベーションコース客員教授、株式会社ユーディット会長兼シニアフェロー <著書等>『ユニバーサルデザインのちから』（生産性出版）、『スローなユビキタスライフ』（地湧社）、『シニアよ、ITを持って地域に戻ろう』（NTT出版）、ほか</p>	<p>2021年8月22日（日） 19:00～20:30 Zoom オンライン開催</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; color: red; font-weight: bold;">開催済</div>

	<p>会のユニバーサルデザインの専門家と一緒にプラットフォームのあり方を考えます。</p>		
5	<p>「人生 100 年時代の生き方、働き方、学び方」</p> <p>人生 100 年時代は、単に長寿化ではなく、さまざまな社会的変化と人の生き方の変化が生まれると言われています。デジタル革命、With コロナによって、予想もしなかった大きな社会的変化も現れています。</p> <p>働き盛りの人、定年が近い人、定年後の人にとって、これをどのように捉え、どんな問題意識を持つ必要があるのでしょうか。</p> <p>高等教育機関である大学開放事業の「学び」を学習者はどのように活用し、どのように利用していくのか、After コロナの社会へ向けて、生涯学習機関の学習機会の提供もこれを視野に入れていくことは大切です。</p> <p>人生後半の長期間も、必要とされる自分であり続ける「生涯現役」とは、どんな自分でしょうか。生涯学び続けることは人生を拓くと言われますが、それはどのような学びでしょうか。</p> <p>生涯現役に必要な考え方や学びを長年にわたって提供されている柳原正年氏、社会教育・生涯学習を研究され、多くの社会人を大学に迎え入れている藤田公仁子氏と一緒に、人生 100 年時代の生き方、働き方、学び方を考えます。</p>	<p>1) 「人生 100 年時代の新生涯現役活動」 柳原正年氏 富山社会人大楽塾代表、日本生涯現役協議会理事、NPO 法人地域学習プラットフォーム研究会監事</p> <p>2) 「大学開放の可能性と多様な学びへの期待」 藤田公仁子氏 富山大学地域連携推進機構生涯学習部門教授、放送大学富山学習センター客員教授、 NPO 法人全日本大学開放機構副理事長 <著書等> 『大学解放論』（共著、大学教育出版）、『大学はコミュニティの知の拠点となれるか』共著、ミネルヴァ書房）、 文部科学省監修『地域・大学協働実践法』（共著、悠光堂）ほか</p>	<p>2021 年 9 月 11 日 (土) 19:00~21:00 Zoom オンライン開催</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block; color: red; font-weight: bold;">開催済</div>
6	<p>「Moodle の可能性をどう引き出すか」</p>	<p>「世界と日本の Moodle」 (仮) 喜多 敏博氏 熊本大学教授システム学研究センター長・教授 NPO 法人くまもと LR ネット理事長</p>	<p>(依頼中)</p>

7	<p>「人生 100 年時代に役立てる e ポートフォリオとは」</p> <p>e ポートフォリオは、一人ひとりが学んできたこと、経験で得た知識など蓄積・記録し、これらをもとにして社会との関わり方を考え、新たな生き方、働き方に生かすことができる可能性を持っています。</p> <p>欧米では、e ポートフォリオを活用した自己開発や自己成長の支援を行うとともに、e パスポートとして学習成果などを証明する社会的仕組みが確立しています。</p> <p>日本では社会人の活用例はあまり見られませんが、培ってきた経験や知識をこれからの社会にどのように生かすか、人生 100 年時代の社会参加とキャリアシフトのための仕組みとして、その活用方法を一緒に考えます。</p>	「EU における自己開発支援」 (仮)	(計画中)
8	<p>「命を守る生涯学習」</p> <p>東日本大震災では、多く人々の尊い命を失い人々の日常の生活も奪われましたが、そこから生まれてきたものもありました。避難所に避難していた子どもたちが、自分たちに出来ることはないかと考え、自ら動き出したことにより、社会の人々の子どもたちに対する見方が大きく変わりました。中学生や高校生が居てくれて助かったから、居てくれなくては困るという思いへと変わり、彼らを社会の一員として認める意識が生まれてきたのです。一方、子どもたちも、自分たちにも出来ることがあるんだ、社会の役に立つことが出来るんだという自信を獲得し、そこから行動に大きな変容が生まれました。子どもたちが主体的に課題を見出し、解決に向けて動き出すことこそ、予測不可能な未来社会をたくましく生き抜く力を身につけることにつながると考えます。OECD が教育の未来像として示した学びの羅針盤では、子どもたちが身につけるべき資質能力として、責任ある行動をとる力、対立やジレンマを受け入れる力、新たな価値を創造する力を上げています。これらを養う上で重要なのが当事者意識つまり自分ごととして主体的に活動することだと述べて</p>	<p>「次世代を育むために、今大人がすべきこと」 ～東日本大震災からの学びを通して～</p> <p>野澤 令照氏</p> <p>宮城教育大学学長付特任教授、学校と地域の融合教育研究会副会長、宮城県生涯学習審議会会長、みやぎ防災教育推進ネットワーク会議委員ほか</p> <p><著書等> 『子どもの問いでつくる道徳科実践事例集』 (東京書籍)、 『子どもたちの未来を拓く探究の対話 (p4c) 』 (東京書籍)、 『キャリア教育の底力-寺岡小学校編-』 (公文書院) ほか</p>	<p>2021 年 10 月 31 日 (日) 19:00～21:00 Zoom オンライン開催</p>

	<p>います。</p> <p>一方、私たち大人はどうでしょうか。世の中を一変させたコロナ禍の中で、一人ひとりが未来社会を担う子どもたちを育む責任ある行動をしているのでしょうか。昨年、初めて感染者が出た地域では、石を投げ罵声を浴びせる大人が何人もその家にきました。</p> <p>不寛容社会と言われるように、他人を糾弾する一方で社会全体の課題に対しては他人事と考える大人が多いのではないのでしょうか。そのような大人を子どもたちは見て育ちます。</p> <p>このフォーラムでは、震災で主体的に行動した子どもたちから、私たち大人が今何をすべきか学びます。（野澤令照氏からの紹介文を引用・加筆）</p>		
9	<p>「地域でつくる新しい学びのプラットフォーム」</p> <p>成熟社会に向かう中で人生 100 年時代を迎え、生涯学習の充実が益々高まってきていますが、既存の社会教育施設は時代の変化に即応しにくくなっていて、我が国のリカレント教育は世界各国から大きく引き離されています。成人の学習参加率が高いスウェーデンでは、大人の学びの場としての「スタディーサークル」が日常の学習の場として根付いており、高等教育への橋渡し機能を担っています。</p> <p>情報通信環境が飛躍的に発展する中、スタディーサークルの機能を有する e 公民館を民間で設置・運営することにより、生涯学習やリカレント教育の推進に与える効果と役割について、議論を深めてみたいと考えます。（和崎宏氏からの紹介文より）</p>	<p>「リカレント教育を促進する Dx 時代の e 公民館戦略」</p> <p>和崎 宏 NPO 法人はりまスマートスクールプロジェクト理事長 関西学院大学総合政策学部非常勤講師 インフォミーム株式会社代表取締役</p> <p>松原 一弘 大阪狭山市立公民館勤務 狭山池まつり実行委員会副会長 元大阪狭山市教育委員</p> <p>畑井 克彦 関西 SDGs プラットフォーム共育分科会会長 大阪産業大学非常勤講師(生涯学習論) 関西学院大学非常勤講師(情報化社会と人間・情報科教育法)</p>	<p>2021 年 11 月 7 日 (日) 19 : 00 ~ 21 : 00 Zoom オンライン開催</p>